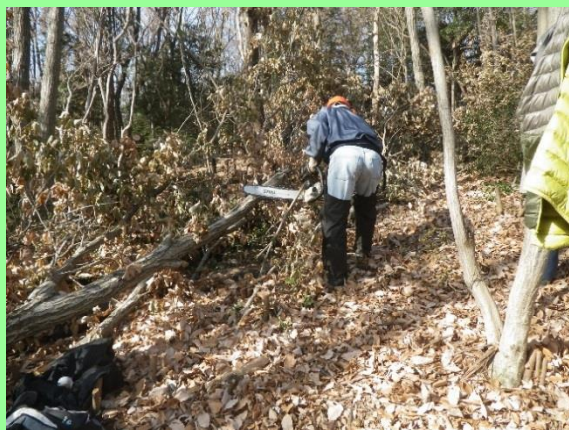




現在、市内の菅生地区で「木を切って森をつくる」活動を進めています。一見、矛盾する言葉の並びですが、萌芽更新という伝統的な広葉樹林の管理方法で森を若返らせる方法です。近代化の中で置き去りにされてきた里山林は、すでに壮齢林～老齢林の域に達しています。これらの森を若返らせるためには、大きく育ったコナラを伐採する必要があります。この活動では、ポツポツとコナラを残して、萌芽更新が成功しなくても、残されたコナラのドングリが種となり、実生でコナラが生える方法も取り入れています。

言葉では簡単ですが、狭い間隔で不規則に生えている大きなコナラを、残すコナラの間に倒すのは、高度な伐採技術が必要になります。幸いにも、この活動には協力してくれるボランティアの方がいて、技術についても、これまでの活動によって向上し、正確な伐採ができるようになっていました。

伐採したコナラは、シイタケの駒打ち体験の「ホダ木」として活用されます。

- ・森を若返らせる
- ・伐採木は有効活用する
- ・択伐により森を残す



コナラ林を次世代に引き継ぐためには、択伐による森の若返りがとても重要です。森を残しながら木を切ることは、森に棲む生き物への影響も少なく、「生物多様性」にも配慮した伐採方法と言えます。

森づくりは先の長い話です。萌芽更新などで成長したコナラを次に伐採するのは、現在、参加している若いボランティアの方の子どもたちの世代になると思います。その子どもたちが森に興味を持ち、森の管理が続いていけばと考えています。

森を次世代に引き継ぐためには、持続的な森林管理を行っていくことがとても大切です。



✦ 新しい森づくり ✦



上の写真はどちらも皆伐（一区間全て伐採）されたコナラ林です。一斉に灌木類が生い茂り、分け入ることも難しい藪が出来上がります。この藪も、ヤマウルシやハリギリ、アカメガシワなど先駆植物と呼ばれる樹種がはびこり、ササなども林床植物を抑えて広がりはじめています。藪の中をよく見ると、コナラやヤマザクラ、イロハカエデなど、本来この森に生えていた高木類の実生苗や切り株からの萌芽も見られますが、このままでは、周りの灌木の陰になり、予定している落葉広葉樹林には育たなくなります。



本来、森をつくるときは、苗木を植えるのが一般的ですが、菅生地区の活動場所では、必要な樹種（コナラなど）を残しながら藪の刈払いを行う方法を取り入れています。荒仕事ができる丈夫な鎌を手しに、ヤマザクラやコナラを優先的に残しながら、ボランティアの方と手作業で藪の刈払いを進めています。

冬季は、落葉樹に葉がなく樹種の特정이困難ですが、ボランティアの方はとても頑張っています。今年中に全体を見通せる林にできればと考えています。

一度では、望む森のかたちにはなりません。森づくりは時間をかけて進めていきます。

